

危険な動植物

◎野外での活動は楽しいですが、自然界には危険な動物や昆虫もいます。また、かぶれる植物もあります。安全に自然観察をする為に、野外における危険な生物について、よく知っておきましょう。

◎活動中のケガ等で、緊急を要する場合は、事務室まで連絡をしてください。

1) 危険な動物・昆虫

○マムシ

〔特徴〕 ・毒ヘビ。頭部が三角形で、体長は60cm以下。胴に大きな銭型斑紋があります。

〔対策〕 ・マムシを見つけたら、刺激しないように、**静かにその場を離れましょう。**

〔咬まれたら〕 ・それほど毒の回りが速くないので、あわてず、**まず安静にすることが大切です。**

・傷口から心臓よりのところを軽くしばります。(きつくしすぎないこと)

・**早急に病院に行きましょう。**

(※注意) 毒を口で吸い出すのはやめましょう。咬まれた所を冷やしてはいけません。

(※注意) 模様が派手なヘビは毒ヘビの場合があります。近づかないようにしましょう。



○ツキノワグマ

〔特徴〕 ・体長約2m。体が黒く、胸には三日月形の斑紋があります。山地の森林にすんでいますが、近年は秋を中心に、食物を求めて人家周辺にも出没しています。

〔対策〕 ・**一番の対策は熊に出会わないことです。**

・その地域で熊情報があつた場合は注意。

・山で、熊の足跡やフンを見つけた場合は、引き返しましょう。

・熊が人間の存在に気づかず、バツリ出くわす状況が一番危険です。**熊よけ鈴をつける**等で、熊に人間の存在を知らせることも効果的です。(研修中の貸出可能)

〔出会ったら〕 ・遠くにいる熊なら心配ないので、そっと立ち去りましょう。

・近くで出会ってしまった場合は、熊を興奮させないよう落ち着いて、熊と向き合ったまま、ゆっくりと後退しましょう。

・子熊に出会ったら、近くに必ず母熊がいます。絶対に近づいてはいけません。

〔攻撃されたら〕 ・熊の攻撃は一撃で終わり、その後、人間から逃げていくので、腹ばいになり、両手で首の後ろをガードして、抵抗しないようにします。

○スズメバチ

〔特徴〕 ・強い毒をもつハチ。アナフィラキシーショックでの死亡例も多く、野外活動で最も注意すべき昆虫です。

〔対策〕 ・黒い帽子や衣服を着るのは、できるだけ避けます。

・ハチの巣には、近寄りません。

・樹液の出ている木のそばを通る時は、ハチを刺激しないよう、十分に注意して通過します。

・スズメバチを見つけたら、刺激しないように、**静かにその場を離れましょう。**

〔刺されたら〕 ・その場からできるだけ遠ざかります。(集団での2次攻撃を予防するため)

・傷口を水でよく洗浄します。傷口をつまんで毒液を絞り出しながら洗うと効果的です。

・あれば抗ヒスタミン剤含有のステロイド軟膏を塗って、患部をよく冷やします。

・何よりも**早急に医師の治療を受けることが大切です。**



○マダニについて

- 〔特徴〕
- ・体長が3～4mm(吸血前)→15mm(吸血後)。
 - ・森林や草むら, 屋外に広く生息しています。
 - ・近年マダニが媒体となる SFTS(重症熱性血小板減少症候群)の感染による死亡例も多くあり, 注意が必要です。



- 〔対策〕
- ・帽子・長袖・長ズボン等を着用し, 肌を露出させません。
 - ・帰宅後は, 衣服や体全身にマダニが付着していないかチェックしましょう。
- 〔咬まれたら〕
- ・咬まれても痛みや痒みは感じない為, 刺されたこと自体に気づきにくいです。
 - ・マダニに咬まれていることを発見したら, 慌てて手で引っ張ろうとせず, 早急に皮膚科へ受診しましょう。

2) 危険な植物

○ハゼノキ・ヤマウルシ・ツタウルシ・(ヌルデ)

- 〔対策〕
- ・かぶれる植物に触れないようにします。また, 肌の敏感な人は, そばを通っただけでもかぶれることがあるので, 近くを通らないようにしましょう。(特に雨天時や, 湿度の高い日は注意が必要です。)
 - ・野外活動では帽子, 長袖長ズボンを着用します。
- 〔触ったら〕
- ・患部を水洗いしてください。
- 〔かぶれたら〕
- ・患部をこすってはいけません。
 - ・ぬれタオルなどで冷やすのも効果的です。
 - ・植物体や患部に触れた手で触れたところも, かぶれが広がるので注意します。
 - ・あれば抗ヒスタミン剤含有のステロイド軟膏を塗ります。
 - ・症状が長引くようなら, 病院で診てもらいます。



※かぶれる植物は, 葉や茎が赤いというイメージがありますが, 個体差によってそうでないものもあるので, 注意しましょう。

※活動フィールド内の, かぶれる樹木には黄色テープがつけてあります。触らないでください。

○キノコについて

- 〔特徴〕
- ・たくさんの種類のキノコが存在し, マツタケなど高級食材となるものもあれば, 死亡例も多くある毒キノコも多数あり, 図鑑等をみても, 食用かそうではないかの判断は専門家でなければ, 困難です。
 - ・毒キノコの中でも, 「カエンタケ」とよばれるキノコは, 体に触れるだけでも炎症を起こすといわれる猛毒キノコで, 野外を歩く際は気をつけましょう。



- 〔対策〕
- ・キノコの種類の判断はとて難しく, キノコ狩りをする際には, 自分で図鑑等を見て判断するのではなく, その土地に詳しい専門家と一緒に判断をしてもらいましょう。